

## アメリカ合衆国オバマ大統領のメッセージ

濱田 鉄心

まず、国際部は今回の大会行事がグローバルな観点から評価されるように本大会行事に合わせて世界各国からの政治的、外交的指導者から祝辞もしくはメッセージを得られることを目標に昨年からは各国支部指導者に依頼をしていた。これは容易なことではないことを我々は十分理解していたが、ほとんど全ての参加国にその趣旨目的が伝わり素晴らしい祝辞の数々が送られてきた。これは本会の主催する大会行事が世界各国の指導者に単なるスポーツ演武イベントではないという理解が得られたことであると思う。しかしながらこれらの努力は海外の国際部指導者が本会の趣旨目的に情熱をこめて働いてくれたことにならない。

その中でも最大のチャレンジはホワイトハウスから現職大統領の署名入りメッセージを受理することであった。全く前例のない事案であることと、アメリカ外交政策のプロトコルから判断してもまず不可能に近いことであった。しかし開会式でこのメッセージが披露されたようにこれが実際実現したことは国際部アメリカ武心館道場門下生達の献身的な粘り強い働きがあったからこそである。我々がオバマ大統領の署名入り書簡を手にした時、その感動に震えたのと同時に本会の

歴史は国境を越えて大きく動いたと確信した。おそらく日本国内でこのようなメッセージを受け取った組織団体は皆無であろうと思った。そのメッセージは本大会に参加した全ての人達に感動的なインパクトを与え、本会に対してその努力に敬意を表されたものであった。我々はこのかけがえのない祝辞の恵みに対して感激すると共にオバマ大統領の温かいメッセージに深く感謝したい。

そしてほぼ時を同じくして、そのオバマ大統領が五月二十五、二十六日に伊勢志摩サミットに参加のため訪日された。G7の政治的外交的な成果よりも一番関心と呼んだのは彼自身の歴史的広島訪問であった。オバマ大統領の広島訪問は現職大統領が広島を踏んで自らの理想主義を世界にアピールすることによる歴史的な象徴を意味する感慨深いものであった。世界のメディアが注目する中、彼の素晴らしいスピーチで多くの人達が勇気付けられたと確信する。彼の核なき世界実現に対する情熱は広島を訪れることによって、一層意味深くなったことは間違いない。被爆者に対する気持ちも真摯に伝わってきた。オバマ氏自身が作った祈りの折鶴を持参した事にも誠実な心が込められていた。これからも世界の指導者や海外からの多くの人々が広島と長